

# すざか 農業委員会だより

第51号

発行編集  
須坂市農業委員会  
電話(026)245-1400  
内線 3772



▲アグリス生産者直売コーナー



朝、採りたてのアスパラ、  
キュウリ、トマト、小松菜、  
イチゴ、モロコインゲン  
と春物野菜が所狭しと並べ  
られている。JA須高アグ  
リス生産者直売コーナー、  
土日祝祭日には約二千名  
のお客さんが一度は足をとめ  
てみる人気ぶり、露地物が  
出回る頃には新鮮・安全安  
心を求めてお客さんも増え  
るという。

名 直売会員数は約二百数十

## 主な 内容

- 農業委員定数削減を市長に要請
- 豊丘地区に信州すざか農業小学校開校
- 農業委員と認定農業者で意見交換
- 農林関係予算
- 県選出国議員との農政懇談
- 農業委員会部会活動報告
- そば打ち体験交流会に参加して
- 家族経営協定は女性が一步前に進める環境づくり
- 生き生き農家・農家に嫁いで

# 農業委員定数削減を市長に要請

## 委員総数26名から21名に

農業委員会では、「かけがえない農地と担い手を守り、力強い農業をつくるかけ橋」を組織理念として、地域農業の発展に尽くしており、昨今の社会、経済情勢を考慮するなかで、定数見直し研究委員会を7月に設置し、定数のあり方等について研究を重ねました。

平成17年7月の農業委員一般選挙から現農業委員定数26を5人減らした21人とするよう10月の農業委員会定例協議会で要請案を決議し、荒井農業委員長は11月9日三木須坂市長に、委員定数を削減するよう要請しました。

要請内容は、選挙による委員の定数を20から16、選任による委員の定数を、議会が推薦する農業委員会委員を3に農業協同組合推薦の理事1に土地改良区1を加えた選任委員を5としました。

農業委員定数の見直しは、東村が合併した昭和46年以来的定数見直しとなり、国の農業委員会交付金の削減、農家数や農家人口、経営耕地面積



三木市長に荒井会長から要請書を提出 11月9日



校長 羽生田郁雄

市教育委員会は、小学生を対象として、豊丘地区に信州すざか農業小学校を開校する。自然に触れ合いながら自由に体験、勉強し、将来に亘り精神力、想像力を身につけた次代を担う子供達を応援するためのものである。

完全学校週5日制に伴い食

須坂市議会定例会で「須坂市

農業委員会の選任による委員の議会推薦委員に関する定数条例の制定」と「須坂市農業委員会の選挙による委員の定数条例の一部を改正する条例」が議決され、7月の農業委員一般選挙から適用となります。

糧に対する正しい理解と、農業を体験しながら地域の文化、ふるさとの再発見をしていただくという目的である。

昨年から岐阜県国府町の荒木農業小学校視察を皮切りに、何回か農家先生の職員会を開催し、計画の立案や検討を重ねてきた。

須坂市では、初めての試みでもあり、ボランティアで行う豊丘地区の農業経験者は指導となる自信の有無に一抹の不安も感じられる。

しかし、そこは豊丘の地域性で目的達成のため一致団結し、かなえられる自信に満ちている。

農業小学校生活の体験の中で、多くの友達を作り思い出を作ること、それが将来に活かされ、須坂市の発展にも寄与されるものと確信する。

豊丘の独自色を取り入れた、すばらしい農業小学校の運営を期待したい。

# 農業委員と認定農業者で意見交換

農業委員会では、3月2日認定農業者の意見、要望を農業施策に反映するため、県農業会議、農業改良普及センター、須高農協、市農林課の出席を頂き、市民館で意見交換会を行いました。

当日は、講師として須坂市農業振興アドバイザー玉井袈裟男先生より「集落からの村づくり」と題して基調講演がありました。

一、今までのむらを生産・生活・自然・文化環境とそれぞれに見直し、これからのむらづくり構想を練ることが大事二、むらづくりは皆でやろうでは上手いかわない、自分自



認定農業者との意見交換会  
(公民館3Fホール)

身のやる気の問題、一人ひとりが一歩前に踏み出せばそこから事は始まる。と身近な事例でお話になりました。

①今、農業が直面している問題は、安定的に収益が上がらないことに尽きる。

②制度資金はあるが、気があっても先行き不安で借りられない。

③農業分野におけるマーケティングの重要性が語られている。また、付加価値をつけて販売することが大事な要素であるので、ジュース、ワインの加工場を加えた地産地消活動にも繋がる直売施設が須坂にも望まれる。

④地場野菜、伝統作物のブランド化を考えるなど限られた時間ではありましたが、様々な意見、要望が述べられました。

今後、更に関係機関との連携を強め、認定農業者や集落を基礎とした生産組合等、多様な担い手農家の育成を図るとともに、消費者の求める安全、安心な農作物を高品質で供給できる産地形成が望まれます。



## 平成17年度農林水産業費予算決まる

### 農林水産業費6億4千9百万円

平成17年度予算は、引き続き厳しい財政事情のもとでの編成となりましたが、農林課としては須坂市農業の抱える諸課題の解決と農業経営の安定と発展に努めてまいります。

平成17年度の農林課所管の当初予算は前年度比12・4％増となりました。増額の主な理由は昨年の台風23号により被害を受けた相之島排水機場の排水ポンプを修繕保全する費用6千万円を計上したためです。

主なる施策は次のとおりです。

#### 【食と農100人委員会】

平成15年度から実施してまいりましたボランティアの皆さんによる「食と農の基本計画策定100人委員会」を引続き開催し、7月の提言を目標とします。この提言を受けてさらに「食と農基本計画策定懇話会」を設置し、提言の具体化を検討してまいります。

#### 【産地ブランド推進事業】

係を新設し、販路の拡大や食の安全安心に取組む農業グループに対し支援するほか、体験型観光農業の推進についても検討を進めます。

また、果樹の新品種の導入についても従来どおり実施し、果樹産地のブランド化を推進してまいります。

#### 【鳥獣被害防止対策事業】

県の「野生鳥獣と共存の集落づくりモデル事業」など三事業を導入し、従来からの「捕獲・駆除」主体の有害鳥獣施策を交換し、山間部と耕作地の間の間伐整備を行い、集落周辺に「緩衝帯」をつくることにより、その出没を防いでまいります。

#### 【農業後継者対策】

引続き農業後継者グループの育成や、新規就農者の研修支援を行ってまいります。

また、4月に開校する「須坂農業小学校」にも地域の農業者の皆さんとともに支援をしてまいります。

#### 【農業経営基盤強化対策事業】

平成17年度以降の継続が決まった中山間地域直接支払制度の拡大に努めるとともに、3年目を迎える農業サポートセンターに対しても支援をしてまいります。

#### 【土地改良施設修繕保全事業】

相之島排水機場のポンプを

修繕し、災害時に備えてまいります。

#### 【土地改良事業】

農道改良、農道舗装各2路線のほか水路改修などを実施してまいります。

3年目を迎える相之島地区基盤整備事業については農道改良、ほ場整備を行ってまいります。

また、地域の皆さんが直接工事を行う場合に原材料を提供する「手づくり普請協働事業」を新規に予算化しました。

#### 【林業振興事業】

間伐対策事業として、森林機能増進パイロット事業を導入し、引続き森林の水源地機能の維持増進を図ってまいります。

また、松くい虫防除対策事業、林道うつくし線、米子不動線の改良工事に取組むとともに、県が行う林道戸谷沢線開設工事の負担金を計上しました。

#### 【農林課の組織改革】

農林課内に「産地ブランド係」を新たに設け、販路の拡大や、伝統野菜の復活・再生、特産品の開発などに取組んでまいります。

また、庶務係と農政係を「農政係」に、耕地係と林務係を「耕地林務係」とし、4係から3係体制になります。

## 小林会長代理に県農業会議会長賞

### 5期以上の勤続農業委員会委員表彰

長野県農業会議創立50周年にあたり、3月29日メルパルク長野で、長野県農業の振興と農業委員会系統組織の活動強化に貢献された農業委員が、長野県農業会議会長 種臣会長から表彰された。

表彰は、5期以上（15年以上）の勤続農業委員が表彰された。表彰された小林会長代理は、受賞された。受賞された小林会長代理は、受賞を契機に、地域農業の活性化のため、農業者やJAの連携を更に深め、行動する農業委員として力を尽くしたいと、抱負を述べられました。

## 県選出国会議員との農政懇談会開催

H16・12・6（長野市）

当農業委員会から3名参加し、第50回長野県農業委員大会の決議事項の実現に向けて、

県選出国会議員に要請し、懇談会では次の4点を中心に要望が出されました。

- ① 台風23号災害復旧対策
- ② 中山間地域等の直接支払い制度の継続拡充
- ③ 自給率向上について
- ④ 高齢化担い手不足の中、農業の継続維持対策

以上について、安心安全な食料確保のためにも自給率向上が必要、農業を守るためにはプロ農家のみに援助を強めるだけでは駄目、また、昨年同様の抽象的な要請ではあまり意味がなく、もっと具体的な内容が必要である等の認識で一致しました。



## 農業委員会 部会活動報告

### 農業振興対策部会

部会長 羽鳥 敦夫

当部会では、農業従事者の高齢化、輸入農産物増加による価格低迷、鳥獣被害による耕作意欲の喪失等で今後益々遊休荒廃農地の増加が懸念される中、魅力ある農業、活力ある農業づくりに向け、主に研修活動をしてきました。

○農産物直売所「アグリながめ」視察 ○長野県農業総合試験場における研修と交流 ○千曲ヤーコン組合視察 ○豊丘地区のヤーコン研究会発足に参加協力 ○長野県農村工業研究所視察 ○残留農薬問題の発生に伴い、安全安心な食と農業の研修 ○杏栽培現地視察（伊藤喜隆氏園） ○近年、食農教育の大切さが叫ばれていることから、桜柿羊の里（松本市の農業小学校）視察 ○ヴィラデストワイナリー（農園レストラン）等の視察

以上の活動をとおして須坂市農業の振興に少しでも役立つことができるよう、今後とも活動を進めてまいります。現在、ヤーコンジュース・ヤーコン焼酎等の加工による

新たな須坂ブランドが確立されつつあります。

今後、豊かな美しい農村づくりのため、新しい試みが一番大切なことではないかと様々な学習をとおして感じます。

### 農地対策部会

部会長 北澤 範夫

「農家の皆さんが安心して農業が営まれるよう環境を整備していく」をテーマに活動してまいりました。前委員さんより引き継いだ調査・研究・対策の中で特に陸砂利採取については建設事務所の許可、そして、土地改良による一時転用の審査・許可は農業委員会でやっておりませんが、農地対策部会では、埋め戻し後、農地としてどのように利用されているのか、実態調査を行いました。

過去5年間に陸砂利採取を行った農家の皆さんにアンケート調査を行ったところ、遊休農地化している農地が、埋め戻し農地全体の8割に達している現状から、何らかの対策の必要性を感じるとともに、農業を取り巻く様々な問題点が関係していることを強く感じます。

また、前部会から継続で調査している高速道沿いの融雪材による果樹の塩害について

は、公団の対策によって今期は大きな被害もありませんが、今後とも注意をして対処していきたいと思っています。その他、部会として有害鳥獣の現地調査、そして何よりも農業振興が大切と考え、地元JA営農部との意見交換等行ってまいりました。

### 農業後継者対策部会

部会長 佐藤 善一

JA青年部の皆さんにアンケートをとり、併せて農業委員会に係わる制度を知っていただく機会としました。対象者78名中の64名から回答を得ましたが、農業に就いたときの年齢や経緯を見ると大きな変化を感じます。

平成3年頃までは、新卒者や25歳までの就農がほとんどでしたが、その後は新卒者が少なく、企業のリストラ等で会社をやめてからの就農も見られます。また、30歳までに就農した者は6名と少なく課題です。

青年部には青色申告者、認定農業者が多くいるので、有利な農業者年金や制度資金を利用できるので大いに活用してほしいです。ほかに荒廃農地の活用、農地の集約などの情報してほしいとの要望がありました。

2月には農業後継者結婚相談推進大会に参加しました。働く女性は家事・育児の負担で結婚をためらい、未婚化・晩婚化のお話がありました。一方、男性はパソコン等で会話が

なく、自己PRできないので、結婚するには意識を変えることが大切とお話でした。

3月には、JA青年部の皆さんと、意見交換会を行いました。若い人が、農業から離れたら、組織に入らないのは、周りの先輩が元氣なく活がないからとの指摘もあり、また結婚や荒廃農地問題等で見が出され、その後懇親を深めました。

農業の担い手の育成は、今後組織をあげて取り組む必要を強く感じます。

### 農業振興対策部会

|        |       |
|--------|-------|
| 関野 貞夫  | 中村 幹雄 |
| 西澤 えみ子 | 坂田 正  |
| 武田 博司  | 市村 憲章 |
| 上原 徳穂  | 荒井 達也 |

### 農地対策部会

|        |       |
|--------|-------|
| 羽生田 郁雄 | 徳永 剛吉 |
| 一色 定吉  | 小縣 健  |
| 山岸 和美  | 佐藤 行勇 |
| 坂田 耕児  | 小林 郁雄 |

### 農業後継者対策部会

|       |       |
|-------|-------|
| 吉池 宏美 | 松澤 正敏 |
| 牧 厚子  | 茂木 群男 |
| 丸山 洋子 | 中村 明伯 |

## 農業委員会活動記録

（平成16年11月～平成17年3月）

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 11月1日 | 農業振興対策部会視察研修        |
| 5日    | 市長に台風23被害対策に係る要請書提出 |
| 9日    | 農業委員定数見直しについて市長に要請  |
| 18日   | 須高地区農業委員会協議会役員会     |
| 12月1日 | 11月定例総会             |
| 26日   | 長野県農村女性フェスティバル      |
| 18日   | 須坂市農業振興地域整備促進協議会    |
| 5日    | 長野県選出国会議員との農政懇談会    |
| 17日   | 農業委員研修会             |
| 27日   | 12月定例総会             |
| 1月21日 | 農業委員研修会             |
| 28日   | 部会長・ブロック長会議         |
| 31日   | 1月定例総会              |
| 2月3日  | 農業委員研修会             |
| 14日   | 須高地区農業委員会協議会        |
| 16日   | 農業後継者結婚相談推進大会       |
| 17日   | 部会長・ブロック長会議         |
| 24日   | 農業振興対策部会            |
| 25日   | 農地対策部会              |
| 27日   | 農業委員会活動活性化セミナー      |
| 27日   | 2月定例総会              |
| 3月2日  | 須高地区農業委員会研修会        |
| 3月27日 | そば打ち体験交流会           |
| 3日    | 認定農業者との意見交換会        |
| 3日    | 家族経営協定合同調印式         |
| 18日   | 農作業標準労賃等協定会議        |
| 23日   | 情報委員会               |
| 28日   | 3月定例総会              |
| 29日   | 県農業会議創立50周年記念大会     |



## そば打ち体験交流会に参加して

須坂エコライフネットワーク広報担当 石田 信

私達「須坂エコライフネットワーク」の8人が、初めてのそば打ち体験をさせていただきました。

豊丘活性化施設で、9テーブルに各4～5人でのそば打ちでした。練り：伸ばし：切るまで粉まみれになり悪戦苦闘でしたが、とにかく初のそば打ちを無事体験することが出来ました。

一番難しかったのは均一に伸ばすことでした。その点、地元の豊丘地域づくり推進委員会の女性講師の方々のテクニックは流石でした。

食事会では、普通のソバは勿論ですが、ヤーコン入りのそばも大変美味しく頂きました。「そば打ち」を体験して感じたことは、休耕地を利用して、こんなに美味しいそばが食べられると云う事は、素



晴らしいことと思いましたが、同時に食べることは簡単ですが、作るのは大変なことに実感しました。

今回の体験会にお招きいただいた農業委員会の皆様に感謝いたします。

私達、「須坂エコライフネットワーク」は地球温暖化防止のために、まず出来ることからやろうとするボランティア団体です。当面の活動は休耕地を利用したの菜の花作り↓菜種油の搾油↓食用油の利用

## 南米アンデス生まれのヤーコン試作

ヤーコン研究会 関野 貞夫

当地の中山間地はヤーコンの適地であることがわかりました。また、有害鳥獣の被害もみられず、芋の植え付け時にネズミの被害が若干ありましたが、病害虫の被害も心配なく、肥料は牛の堆肥がよい成果がありました。ヤーコン芋の生産量、反当り2・5トン前後で、霜には非常に弱いこともわかりました。

芋の反収も今後の研究によりまだ上がると思います。ヤーコンの普及はまだ始まったばかりです。

↓廃食油回収↓再処理↓燃料利用等々…資源循環サイクルを目指します。現在賛同される方々を募集しております。

## 家族経営協定 女性が一歩前に進める環境づくりを！

雪解けの水が大地に凍みて、まだ春浅き3月3日のひな祭りの日、今年も家族経営協定の合同調印式が行われました。各市町村農業委員会長、長野農業改良普及センター所長立会いのもとで11組（須坂市6組）の農家がガッチリと締結をされました。

協定内容には後継者や女性農業者など、家族一人ひとりの地位や役割を明確にし、活

かりです。

生芋の有効期間も四ヶ月前後といわれていますので、付加価値をつける研究が求められます。

三月六日、ヤーコンのシンポジウムが茨城大学農学部で開催され、二名が参加しました。中国科学院大連科学物理研究所の胡建思氏よりSTZ誘導糖尿病ラットに於けるヤーコン葉抽出液による血糖値降下作用の報告は、今後、糖尿病の方々に大きな望みになると思われました。



力と魅力ある農業経営を目標に取り決めました。

一人一言交流会の中では、地域に帰って皆さんにも協定を普及させたい。また、この機会に夫婦仲良く話し合いが出来たこと、夫の定年退職を機に協定を結び「笑顔の絶えない家庭づくりをしたい」とにこやかな表情で感想を述べられていました。この会を運営する関係者と農村生活マイ

スターが見守る中で調印後に夫婦、親子で握手を交わして記念撮影し、照れくさそうな夫婦に参加者から拍手があり和やかなうちに調印式が終了しました。

## 職員の人事異動

4月1日付の人事異動で、経済部農林課、農業委員会事務局の職員に次のとおり異動がありました。（ ）は前任の職名、職場

### 転出

◆市民生活部生活環境課長

◆渡辺 章（農林課長）  
市民生活部人権同和政策課長兼教育委員会人権同和教育課長

◆佐藤 国夫（農業委員会）  
建設課長補佐兼庶務係長

◆佐藤 栄作（農林課長補佐）  
まちづくり課長補佐兼政務係長

◆牧野 豊秋（農林課長補佐）  
財政課 長田 剛（農林課）

◆工業課 小田切信子（農林課）

◆寿楽園長補佐兼管理係長 齊藤友吉（農林課付長野地区農業共済事務組合派遣・須高支所）

◆市民課 伊賀直樹（農林課付長野地区農業共済事務組合派遣・須高支所）

◆まちづくり課 大峽 武（農林課付長野地区農業共済事務組合派遣・本所）

◆産業振興部農林課長兼農業委員会事務局長 佐藤 昭雄（生涯学習課長）

◆農林課長補佐兼政務係長兼農業委員会 豊田 守（農林課長補佐兼庶務係長）

◆農林課長補佐兼耕地・林務係長 奥原 利広（農林課林務係長）

◆農林課産地ブランド係長 関 政雄（企画課行政管理係長）

◆農林課 中山 弘一（上下水道課）

◆馬場千津子（税務課）

◆宮沢 香奈

◆農林課付（長野地区農業共済事務組合派遣・須高支所）

◆山岡 常夫（生涯学習課長補佐）

◆望月 幸一（税務課）

◆農林課付（長野地区農業共済事務組合派遣・本所）

◆関野 勝仁（税務課）

◆退職 和久井節子（農業委員会事務局）

# 生き生き農家を目指して

幸高町 神林 秀明

我が家は巨峰栽培を主とし、ハウス40㍎、露地約50㍎、ピーネ約10㍎、リンゴ約20㍎を父と母と私で栽培しております。

数年前に結婚し、妻は現在子育てに専念しております。

私が就農したのが11年前前になります。それ以前は会社員として約4年間勤めました。

勤めている時は、農業関係の仕事をしていたので農業の知識以外にも農業を違った角度

で見ることが出来、友人も増え大変貴重な経験を得ることとなりました。

就農時、ブドウの施設が20㍎程ありましたが、かなり老朽化しており、早期加温し品質の安定した品物を得るため新たに施設を作る必要があり、リンゴ20㍎もハウスブドウに転換しました。

当初は納得した物が出来ず苦労しましたが、他の園地を視察したり地元の諸先輩方や

友人等からご指導いただき、何とか品質の安定したものが出来る様になりました。また、老朽化したハウスも新しい施設に作り変え、品質の安定化を目指して日々奮闘中です。



品質の良い物を安定して生産することの難しさを日々痛感しながら、様々な失敗を恐れず、それらを踏み台にしながら更なる物を目指し、頑張

りたいと思います。

話はそれますが、現在2歳の娘がおり、仕事から帰ると笑顔で迎えてくれるので、仕事の疲れも一発で吹き飛び、晩酌も格別です。仕事の合間に家族と遊びに出かけますが、良い気分転換となり、年2、3回は泊まりで旅行をするこ

とで、それが楽しみの一つとして仕事も頑張れます。ただ、毎日の仕事も漠然とするだけでなく、仕事以外に興味をもつことも大事だと思います。

生き生きとした農業を目指すには仕事に全力で集中するの

も大事ですが、家族に支えられ趣味を持つ事がゆとりを生みよい仕事ができるのではないかと思います。

重なる台風で一生懸命育てた果物でも強風で落とされ、傷ついた姿を見たときは、自然にはかなわぬこととはいえ、とても悲しく悔しい思いになりました。今、私は子育て中心の生活ですが、新品種(種無し)も取り入れながら消費者に喜んでもらえるような栽培を考えています。幼いころ、農業はいやだと思っていた私ですが、今は私にとって一番やりがいのある、ぴったりの仕事だと感じています。

め到大変重要な房切り作業があり、一つ一つ決められた長さにしなければなりませんし、種が入ったかどうか結実状況も心配です。その後、袋をかけるまでは摘房、摘粒と続きますが一つ一つ愛情を込めて作っていきます。そして、収穫期の真っ黒に光った巨峰を見たときは本当にうれしい気持ちでいっぱいになり、消費者の喜ぶ顔を思い浮かべながら、出荷しています。これで値段がよければもっとうれいのですが、昨年のように度

## 訂正とお詫びについて

前号の生き生き農家で楠茂幸さんの住所を本郷町と紹介しましたが、新町の誤りです。訂正とお詫びを申し上げます。

## 編集後記

毎回掲載させていただいた「生き生き農家」・「農家に嫁いで」の原稿寄稿を快く引き受けてくださいました皆様方には改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

じっくりと読むとどれも感動する内容ばかりで同じ農業者として夢と希望、勇気を与えてもらいました。これからも益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

また、特別部会報告を書いていたいただいた各部会長さん、農業委員会の活動の様子や研修されたことなどを報告された委員さんにもお礼を申し上げます。

委員長 佐藤 行勇  
副委員長 西澤えみ子  
委員 小縣 健

委員 牧 厚子  
委員 山岸 和美  
委員 武田 博司  
委員 中村 明伯

## 農家に嫁いで

### まだまだこれから

高橋町 北澤 千代美

で11年が過ぎました。

今では、4人の子供に恵まれ忙しい毎日を送っています。

我が家は巨峰ぶどう・りんごを中心とした果樹栽培をしています。農家育ちの私ですが、恥ずかしながら何も知らず、一つ一つ主人に教わりながら勉強の毎日です。秋の収穫を迎えるまでには、いくつかの手間のかかる作業をこなさなくてはなりません。巨峰ぶどうでは、握り房を作るた

